

2007年8月

会 員 各 位

日本ファイナンス学会
会 長 新 井 富 雄

第 15 回大会および会員総会報告

日本ファイナンス学会第 15 回大会は、6 月 16～17 日の両日、慶應義塾大学三田キャンパス西校舎において開催され、池尾和人大会委員長、C・マッケンジープログラム委員長をはじめプロコミの皆様ならびに主催校関係者のご尽力により、熱心な議論とともにスムーズな大会運営が実現し、成功裡に幕を閉じることができました。関係各位に心より感謝する次第です。今回は、報告論文 72 本に達し過去最高となるとともに、参加者数も過去最高の 542 人を数える勢いとなり、たいへん喜ばしいものでした。報告セッションは 6 会場にわたり、特別セッション「企業金融」パネル、日銀副総裁岩田一政氏を招いた特別講演などには、多くの聴衆が集まり注目を浴びました。

また、大会開催中の 6 月 16 日午後 4 時 30 分より平成 19 年度会員総会が開かれ、別添資料の各議案が審議されました。重要事項、審議の概要は以下のとおりです。

- (1)平成 18 年度活動報告が資料 1～4 のとおり説明され、原案どおり承認されました。
- (2)平成 18 年度会計報告・監査報告が、提案（資料 5）どおり承認されました。
- (3)平成 19 年度予算（資料 6）が提案され、原案どおり承認されました。
- (4)次期 20 年度大会は、7 月 6 日(日)～9 日(水)の期間、Asian Finance Association との合同国際大会としてパシフィコ横浜を会場に鋭意準備が進められており、組織委員会ではこれまでのところ 240 報告論文、いくつかの招待講演、参加者数も 750 名規模で計画しているなど準備状況が報告され、論文応募、寄付行為、積極的参加などにおける会員の協力が要請されました（資料 7）。
- (5)日本ファイナンス学会正会員(個人)の年会費について、これまでの 8,000 円から 10,000 円に改訂することが理事会より提案され、承認されました。これは、ホームページの大改築、国際大会の開催など大きな費用負担に備えるとともに、学会活動のいっそうの充実を図るためです。

以上が、大会ならびに会員総会の簡単な報告です。学会活動についてご意見ご質問等あれば事務局までお寄せいただければ幸いです。

以 上

日本ファイナンス学会第15回大会
会 員 総 会 議 題

日 時：平成19年6月16日(土)午後16:30

会 場：慶應義塾大学三田キャンパス西校舎517教室

1. 平成18年度活動状況の報告

- ・ 会員状況(資料1)
- ・ 学会誌の発行状況(資料2)

現代ファイナンス

International Review of Finance

- ・ 第14回大会報告(資料3)
- ・ 研究観望会報告(資料4)

4. 平成18年度会計報告・監査報告(資料5)

5. 平成19年度予算(資料6)

6. 2008年国際大会開催準備(資料7)

7. 個人年会費改訂について(資料8)

以上

資料 1

日本ファイナンス学会 会員状況

平成 19 年 6 月 4 日(月)

	2007 年度	2006 年度	2005 年度	2004 年度
正会員	1372 名	1378 名	1370 名	1137 名
学生会員	0 名	0 名	0 名	209 名
会員数	1372 名	1378 名	1370 名	1346 名
特別賛助会員	25 社	25 社	25 社	26 社
純法人会員	31 社	32 社	33 社	31 社
法人会員合計	56 社	57 社	58 社	57 社

海外会員 26 名

新規加入 2007 年 6 月 4 日現在

	2007 年度	2006 年度	2005 年度	2004 年度
法人会員	2 社	2 社	3 社	2 社
個人会員	66 名	54 名	47 名	50 名

退会者 2007 年 6 月 4 日現在

	2007 年度	2006 年度	2005 年度	2004 年度
退会者	73 名 (法人 0 社)	60 名 (法人 3 社)	44 名 (法人 2 社)	42 名 (法人 2 社)

自動引落会員(個人会員) 2007 年 6 月 4 日現在

	2007 年度	2006 年度	2005 年度	2004 年度
(自動引落会員)	671 名	631 名		503 名

2007/6/16

『現代ファイナンス』に関する報告

論文投稿状況 (2006年4月～2007年3月) 合計 24本 (前年同期 22本)
(大学関係者 18本、実務家 4本、大学関係者と実務家の共同論文 2本)(所属は執筆時)

No.20 (2006年9月 実際の発行は12月に遅れる)

審査対象論文数 合計 30本 (継続審査論文を含む)

審査結果 (掲載 3本、掲載不可 13本、継続審査 14本)

No.20 掲載論文

Chen N. / 小林孝雄 / 佐井りさ 「100パーセント・マネー：フィナンシャル・テクノロジーの挑戦」

董晶輝 / 飯原慶雄 「永久イスラエリ・オプションの権利行使条件」

嘉本慎介 「不確実性下における市場参入に対する先発の優位性の影響」

No.21 (2007年3月)

審査対象論文数 合計 20本 (継続審査論文を含む)

審査結果 (掲載 4本、掲載不可 3本、継続審査 13本)

No.21 掲載論文

海道宏明 「株式市場への限定的参加を考慮した消費 CAPM の再評価 - 資産保有マイクロ・データによる実証分析」

内山朋規 / 濱田将光 「わが国社債市場のクロスセクション分析」

芹田敏夫 / 花枝英樹 「わが国企業の株価認識と財務行動」

赤壁弘康 「生産設備に対するウエイティング・オプション効果と限界資本コスト」

その他の事項

1. (編集者の交代) 現在の一部編集者の交代について検討中。

[収入]	2005年度繰越金			3,089,983
	2006年度出資金	MPTフォーラム	¥2,200,000	4,400,000
		日本ファイナンス学会	¥2,200,000	
	広告収入	構造計画研究所	¥105,000	105,000
	預金利息			2,329
2006年度総収入				7,597,312

[支出]	「現代ファイナンス」制作費	20	¥1,740,976	3,711,886
		21	¥1,970,910	
	支払手数料			1,680
2006年度総支出				3,713,566

次年度繰越金 3,883,746

International Review of Finance 誌に関する報告

2006 年度には、以下の 4 号分（合併号 2 号）が発行された。

International Review of Finance Vol. 5, Nos. 1/2, Mar/Jun 2005(合併号)

配布年月：2006 年 6 月

部数：1600 部

Contents:

Kingsley Fong, David R. Gallagher and Aaron Ng “*The Use of Derivatives by Investment Managers and Implications for Portfolio Performance and Risk*”

Ron Guido and Kathleen Walsh “*Bond Term Premium Analysis in the Presence of Multiple Regimes*”

Cornelia Savu and Wing Lon Ng “*The SCoD Model: Analyzing Durations with a Semiparametric Copula Approach*”

Sahn-Wook Huh and Avaniidhar Subrahmanyam “*Order Flow Patterns Around Seasoned Equity Offerings and their Implications for Stock Price Movements*”

International Review of Finance Vol. 5, Nos. 3/4, Sept/Dec 2005 (合併号)

配布年月：2006 年 11 月

部数：1600 部

Contents:

Raymond da Silva Rosa, Nirmal Saverimuttu and Terry Walter “*Do Informed Traders Win? An Analysis of Changes in Corporate Ownership around Substantial Shareholder Notices*”

Simone Brands, Stephen J. Brown and David R. Gallagher “*Portfolio Concentration and Investment Manager Performance*”

Sirimon Treepongkaruna “*Forecasting and Finite sample Performance of Short Rate Models: International Evidence*”

Christine Brown and Katrina Efthim “*Effect of Taxation on Equal Access Share Buybacks in Australia*”

なお、2007 年 4 月に、Vol.6, Nos.1/2, Mar/June 2007（合併号）が発行、配布されました。

資料 3

2007年6月16日

研究観望会活動報告

代表幹事 本多 俊毅

2006年第14回大会以降における研究観望会は、第13回が5月31日に開催されました。熱心な会員が集まり、盛況裡に終了するとともに、日常的な研究交流に資することができました。

第13回研究観望会

日 時： 2007年5月31日（木）

テーマ：「信用リスクモデルの観望とその新展開 トップダウン・アプローチによるデフォルトの依存関係のモデル化」

報告者： 中川 秀敏 (東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科)

会 場： (社)金融財政事情研究会 2階会議室
東京都新宿区南元町 19

出 席： 95人 (個人 49人、法人関係 46人) (受付ベース 全 155人)

以上

資料 4

日本ファイナンス学会 第 14 回大会（東京大学）報告

第 14 回大会プログラム委員会
委員長 新井 富雄

2006 年 6 月 17～18 日開催された第 14 回大会は、過去最高の発表論文数、過去最高の参加者数を得て、成功裡に終了することができました。ご関係各位に感謝申し上げますとともに、大会概要について、以下のとおりご報告申し上げます。

1 参加状況

参加申込：478 名（前年比 22.88%増）（うち個人 347，法人 70，特別賛助 61）

当日出席者：513 名（前年比 29.87%増）（うち個人 361，法人 54，特別賛助 58、他 40）

第 14 回大会は、申込ベースならびに実際参加者数とも過去最高であり、それぞれ前年比 2 割増、3 割増とたいへんな盛況でした。応募論文数の多さにしても、非会員の参加がさらに増加するなど、大会を追うごとにみられる日本ファイナンス学会の増勢基調は引き続き変わらないように見られます。

2 論文報告

研究報告数：70（前年比 12 増） 応募数 72（同 12 増）

今回は、久しぶりに特別招待講演および会長講演が行われ、大いに注目を浴びました。前者には、HEC School of Management Bruno Solnik 教授を招き”Applying Behavioral Finance to Optimal Investment Decisions”を講演していただきました。後者は、川北英隆（京都大学）教授に「企業金融：学会と実務界との交流」を講演していただきました。

また、発表論文数がおおきく増加し、報告会場（教室）を 6 会場に増やすなど、参加者も含め、研究層の広がりが感じられました。

3 会計報告（別紙大会収支表参照）

(1) 総収入は、懇親会費等で 486,000 円と例年なみ収入でした。しかし総費用は 4,650,281 円と前年比 172 万円増加し、学会会計負担（赤字額）は 4,164,281 円となりました。

(2) 支出の増加した主要費目についてみると、以下のとおりです。

- ・ 特別招待講演の交通費支給が金額的におおきく 103 万円かかりました。
- ・ 過去数年支出がなかった会場費（使用料・空調費）が 31 万円かかりました。
- ・ 懇親会は、特別賛助会員の参加者増加などで例年より多めの支出となり合計 73 万円を要しました。申込者で 157 人、実際参加者数は 126 人（事務局把握）を数えました。
- ・ その他の費用は、例年並みにとどまりました。

以上

日本ファイナンス学会第 14 回大会収支
(東京大学、2006年6月17～18日)

収入

懇親会費	436,000
予稿集収入	40,000
寄付(個人)	10,000

収入合計	486,000
------	---------

支出

各種印刷費		1,427,071
予稿集印刷費	850,500	
予稿集用紙代	285,833	
大会プログラム・葉書(封入費含)	205,688	
ポケットカード作成費	18,900	
大会総会資料	22,050	
会長講演・招聘講演資料	44,100	
郵送料等		218,450
大会案内送料	124,650	
セッション関係者宛案内送料	23,800	
大会出欠用返信葉書	70,000	
案内板作成費		21,210
備品購入費		15,874
会場費		313,440
会場使用費	258,000	
空調管理費	55,440	
交通費		12,320
飾生花		26,250
休憩室用飲料等一式		28,013
招聘講師交通費		1,034,913
アルバイト料		584,000
学生	494,000	
社会人	90,000	
弁当代		107,730
懇親会費		861,010
大会懇親会(CapoPellicano)	731,335	
関係者懇親会	129,675	

支出合計	4,650,281
------	-----------

収支差	-4,164,281
-----	------------

資料 5

平成 19 年 6 月 16 日

会 員 各 位

日本ファイナンス学会
監事 鈴木一功、太田 亘
倉田 勲

平成 18 年度会計報告ならびに監査について

1 平成 18 年度の収入は、順調な会費収入 1690 万円と繰越金 2406 万円等を合わせ、総額 4164 万円（1.8%増）になった。一方、支出は総額 1868 万円（10.99%増）になったため、収支戻 2295 万円（4.6%減）を次期繰越金とすることとなった。要約すれば 18 年度会計においては、ホームページの大改築にかかる費用と学会誌 IRF の順調な発行等があったため、収支を若干悪化させたこととなった。以下に特徴的な点を説明する。

2 まず基本となる会費収入は個人、法人とも前年並でほとんど変化のない総額となった。しかし詳細にみれば、個人会員は 1341 人（前年 1352 人）相当額の収入となり、法人は 2 社、10 万円分減少し、総額では 6.2 万円の微減を結果している。

3 支出をみると、まず学会誌購入費が IRF 2 冊分として 240 万円を支出し、現代ファイナンスと合わせて 460 万円になったことが第一の特徴である。第二には、ホームページ大改築費用に 245 万円投資されたことがあげられる。改築は幸い好評であり、過去の報告論文タイトル、今大会報告論文のアップロードなど注目される改造がなされた。

このほか第 14 回大会における招待講演交通費負担などもあるが、経常的費用の節減もあって、総支出は 1868 万円（185 万円、10.99%増）にとどまった。この結果、収支戻は前述のとおり 2295 万円の繰越しとなった。なお、外貨(US\$)勘定は、円安の長期化にともなってドル購入を控えたため、前年どおり残高は 36 ドルである。

4 現在の金融機関をめぐる経営環境は多少好転したものの、いまだ法人会員の低迷はなお続くと見られるなかで、IRF 誌の維持（年 4 万 US ドル、480 万円）や 2008 年 7 月予定の国際大会開催等の負担費用を考えれば、会計事情は依然きびしい状況にあるといえる。なかでも、今年度に見られたように会費収入を超える支出が引き続き見込まれることから、今後の財政維持に何らかの措置を講じる必要があると考えられる。

以上、所見を述べるとともに、会計処理については正確かつ適切に処理されていることを承認し、適正に監査したことを報告する。

以上

日本ファイナンス学会平成18年度 決算会計報告(案)
(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

収入				支出		
< 円勘定 >				< 円勘定 >		
A	前年度繰越金		24,063,606	H	郵送料(郵便、宅配便等)	1,209,441
B	会費		16,900,000	I	電話・通信費(プロバイダー費用含)	413,147
	旧学生会員(滞納分)	5,000 × 4 =	20,000	J	発送作業費	286,231
	正会員	8,000 × 631 =	5,048,000		(発送代行業者への支払等)	
	法人会員	50,000 × 31 =	1,550,000	K	学会案内等印刷費	91,827
	特別賛助会員	200,000 × 19 =	3,800,000	L	理事会運営費	426,556
		300,000 × 1 =	300,000		(理事会開催費・お弁当代等)	
		500,000 × 1 =	500,000	M	封筒・用箋等作成費	225,435
	みずほファクター振替分	5,682,000	5,682,000	N	第14回大会費	4,650,281
C	大会費		486,000		(案内・報告要旨印刷・筆記具・昼食等)	
	懇親会費	4,000 × 102 =	408,000	O	第15回大会準備費	207,203
	二次会費		28,000	P	学会誌作成費	4,602,000
	寄付(個人)		10,000		現代ファイナンス	2,200,000
	非会員予稿集購入費	1,000 × 40 =	40,000		IRF5-1/2,3/4	2,402,000
D	円預金利息		13,298	Q	事務用品購入費	76,903
	前期 H18.8.21		2,310		(PCソフト・プリンターター等)	
	後期 H19.2.19		10,988	R	アルバイト料	3,400,300
E	学会誌売上		128,540	S	研究観望会費(1回)	455,600
	現代ファイナンス		100,900		(研究奨励金、資料印刷費、交通費等)	
	IRF		27,640	T	手数料支払	135,602
F	大会予稿集売上		27,000		(みずほファクター、送金手数料等)	
G	その他		23,000		残高証明発行手数料	630
	会費不足払い		5,000		みずほファクター手数料(4回)	111,457
	IRFレフリー料		18,000		振込、送金手数料	23,515
				U	Web開発費	2,457,900
					収入印紙	400
					Webサイト構築費	1,890,000
					源泉所得税	210,000
					Webサイトコンサル費	200,000
					Web運用費	157,500
				V	その他	50,000
					アナ協H18会費	50,000
A+B+C+D+E+F+G 日本円合計				H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q+R+S+T+U+V 日本円合計		
¥41,641,444				¥18,688,426		
				残 高		
				¥22,953,018 *		
				*内訳		
				預金(みずほ銀行 H19.3.31)		
				¥22,869,979		
				現金有高		
				¥83,039		


(次ページへ続く)


収入		支出	
<US\$勘定>		<US\$勘定>	
a 前年度繰越金	US\$36.19		
b 外貨普通預金利息	0.13		
前期 H18.8.21	0.06		
後期 H19.2.19	0.07		
a+b US\$合計	US\$36.32	US\$合計	US\$0.00
		残 高	US\$36.32 *
		*内訳 普通預金(みずほ銀行 H19.3.31)	36.32


平成19年 5月 31日

日本ファイナンス学会事務局 作成

正確かつ適正であることを認めます。

鈴木 一功 

太田 直 

倉田 勤 

残 高 証 明 書

日本ファイナンス学会 様

平成 19 年 3 月 31 日 現在

金額合計	¥ 22, 869, 979 ※
------	------------------

種 類	番 号	金 額 (円)	摘 要
普通預金	1743750	22,869,979	
		以下余白	

貴ご名義勘定の残高は上記の通りでございます。

平成 19 年 4 月 2 日

株式会社みずほ銀行
四谷支店
035740



(注) この証明書の金額は訂正いたしません。
預金の残高には他店券によるご入金分も含まれております。



1 6 0 - 0 0 1 2

新宿区 南元町 19-6階

日本ファイナンス学会 様

残 高 証 明 書

2007 年 3 月 31 日 現在


(通貨略称を金額頭部に表示し、補助通貨金額は、※欄に表示します。)

種 類 ・ 番 号	金 額	※	摘 要
外貨普通預金 0701434		USD3632	
外貨定期預金 1035829		USD000	
	** 以下余白 **		

貴ご名義勘定の残高は上記の通りでございます。

2007 年 4 月 2 日

株式会社 **みずほ銀行**



四谷支店

(注) この証明書の金額は訂正いたしません。

3355349

日本ファイナンス学会平成17年度 決算会計報告
(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

収入				支出	
<円勘定>				<円勘定>	
A 前年度繰越金			20,725,390	H 郵送料(郵便、宅配便等)	1,316,572
B 会費			16,993,000	I 電話・通信費(プロバイダー費用含)	229,474
学生会員	5,000 ×	26 =	130,000	J 発送作業費	294,641
正会員	8,000 ×	643 =	5,144,000	(発送代行業者への支払等)	
法人会員	50,000 ×	33 =	1,650,000	K 学会案内等印刷費	315,840
特別賛助会員	200,000 ×	19 =	3,800,000	L 理事会運営費	239,542
	300,000 ×	1 =	300,000	(理事会開催費・お弁当代等)	
	500,000 ×	1 =	500,000	M 封筒・用箋等作成費	261,975
みずほファクター振替分	5,469,000		5,469,000	N 第13回大会費	2,923,759
C 大会費			339,460	(案内・報告要旨印刷・筆記具・昼食等)	
懇親会費	4,000 ×	84 =	336,000	O 第14回大会準備費	201,578
二次会費			3,460	P 学会誌作成費	6,137,397
D 円預金利息			209	現代ファイナンス	2,200,000
前期 H17.8.22			96	IRF3-3/4	2,333,600
後期 H18.2.20			113	ドル勘定へ振替(IRF支払用)	1,603,797
E 学会誌売上			143,880	Q 事務用品購入費	248,812
現代ファイナンス			100,410	(PCソフト・プリンタートナー等)	
IRF			43,470	R アルバイト料	3,620,610
F 大会予稿集売上			39,000	S 研究観望会費(2回)	833,032
G その他			2,659,850	(研究奨励金、資料印刷費、交通費等)	
MMF解約金(ドル勘定より)			2,655,850	T 手数料支払	163,951
会費不足払い			4,000	(みずほファクター、送金手数料等)	
				残高証明発行手数料	630
				みずほファクター手数料(4回)	110,669
				IRF通関手数料(1回)	32,758
				振込、送金手数料	19,894
				U その他	50,000
				アナ協H17会費	50,000
A+B+C+D+E+F+G 日本円合計			¥40,900,789	H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q+R+S+T+U 日本円合計	¥16,837,183
				残 高	¥24,063,606 *
				*内訳	
				預金(みずほ銀行 H18.3.31)	¥23,962,596
				現金有高	¥101,010

(次ページへ続く)

収入		支出	
<US\$勘定>		<US\$勘定>	
a 前年度繰越金	US\$49,007.18	f IRF購入費(Vol.4-1/2,3/4)	US\$40,000.00
b 外貨普通預金利息	35.61	g 円勘定へ振替(MMFを解約)	22,660.83
前期 H17.8.22	21.69		
後期 H18.2.20	13.92		
c 外貨定期預金利息	34.08		
H17.4.18	34.08		
d 外貨MMF	295.15		
H17.4.27	28.74		
H17.5.27	37.36		
H17.6.29	35.67		
H17.7.28	36.80		
H17.8.30	44.55		
H17.9.29	42.87		
H17.10.27	42.23		
H17.11.10	26.93		
e 円勘定より振替	13,325.00		
a+b+c+d+e US\$合計	US\$62,697.02	f+g US\$合計	US\$62,660.83
		残 高	US\$36.19 *
		*内訳	
		普通預金(みずほ銀行 H18.3.31)	36.19
		定期預金(みずほ銀行 H17.4.18満期)	0.00
		MMF(みずほ信託銀行 H17.11.10解約)	0.00

平成18年 5月 20日

日本ファイナンス学会事務局 作成

正確かつ適正であることを認めます。

倉田 勲



竹原 均



本多 俊毅



資料 6

平成 19 年 6 月 16 日

日本ファイナンス学会
会 員 各 位

日本ファイナンス学会

平成 19 年度予算について

- 1 「平成 19 年度予算書(案)」は別紙のとおりである。
- 2 まず会費収入については、昨年度の堅調な収入状況から個人会員 1200 人分を収入として見積った。法人会員・特別賛助会員については最近の景気好転をうけて前年なみの収入が確保可能と見積った。収入の基本である会費収入見込みは、この結果 1655 万円となった。繰越金 2295 万円、その他収入と合わせ総収入 4000 万円を計上した。
- 3 一方、支出は、昨年度改築されたホームページ関連経費の支出をはじめ、会員名簿、入会案内等の発行が予定されているため、それに伴う印刷費、発送費の増加等が見込まれる。また、IRF 誌購入のため 480 万円を計上した。そのほか経費は、例年なみの支出を計上した結果、総支出は 1975 万円の見込みとなった。
- 4 以上から、翌年度への繰越金が 2025 万円と見込まれる。ただし、2008 年国際大会のための準備費用が相当かかる見込みだが、国際大会は基本的に特別勘定（別予算）を組む予定なので、本予算には含まれていない。

以上

日本ファイナンス学会平成 19 年度
予 算 書(案)

平成 19 年 6 月 16 日

収入		支出	
< 円勘定 >		< 円勘定 >	
A 前年度繰越金	22,953,018	E 郵送料	1,200,000
B 会 費	16,550,000	F 電話・通信費	1,400,000
8,000 × 1,200 =	9,600,000	G 発送作業費	300,000
50,000 × 31 =	1,550,000	H 学会案内等印刷費	700,000
200,000 × 23 =	4,600,000	I 理事会運営費	400,000
300,000 × 1 =	300,000	J 封筒・用箋等作成費	250,000
500,000 × 1 =	500,000	K 大会経費	3,000,000
C 大会会費収入	300,000	L 学会誌	
D 出版物売上	200,000	「現代ファイナンス」誌	2,200,000
		I R F 誌	4,800,000
		M 事務用品購入費	150,000
		N 研究観望会経費	1,000,000
		O アルバイト料	3,600,000
		P 手数料支払い	250,000
		Q その他	500,000
A+B+C+D	40,003,018	E +F+G+H+I+J+K+L+M+N+O+P+Q	19,750,000
		残 高 (円)	20,253,018
< US\$勘定 >		< US\$勘定 >	
A' 前年度繰越金	36.32	D' 支出	0.00
B' 外貨預金利息	0.00		
A'+B'	36.32	D'	0.00
		残 高 (ドル)	US\$ 36.32

資料 7

日本ファイナンス学会 (NFA)・アジアファイナンス学会 (AsFA)・ Financial Management Association (FMA) 合同国際学会 2008 開催準備進捗状況

2007年6月16日

日本ファイナンス学会 (NFA)、アジアファイナンス学会 (AsianFA)、Financial Management Association (FMA) による合同国際大会に向けて昨年より準備を進めておりましたが、これまでに次の事項を決定しました。

日程：2008年7月6日(日)から9日(水)まで

会場：パシフィコ横浜 (みなとみらい、横浜)

パシフィコ横浜は G8 サミットの候補地の一つに挙がっていた国際会議場であり、サミット会場が洞爺湖に決定されたため確保することができました。国際的 VIP の招待にふさわしい会場であり、一体化した周辺施設や港の眺望を楽しめるばかりでなく、都心からも電車で 30 分程と近く、国際大会を開催する場として申し分ありません。

大会の内容には以下を予定しております。

構成：ファイナンス分野に関する研究・調査の報告 80 セッション (240 報告)

招待講演 2 セッション (2 報告)

特別セッション 7 セッション (21 報告)

学生イベント 1 (7月6日)

晩餐会 (7月7日・8日)

招待講演者：

Prof. Eduardo Schwartz (UCLA)

Prof. Kenneth Singleton (Stanford University)

大会の中心行事である研究・調査の報告、招待講演、特別セッションは 7 日(月)から 9 日(水)に行なわれます。特別セッションは、話題性のあるトピックを選ばると共にその分野でトップクラスの研究者を招聘する予定であり、招待講演者以外にも多くの著名な研究者の参加・講演が見込まれます。また、今回の新規企画として、学部学生を主体とする啓蒙活動を目的とするイベントを、初日の 6 日(日)に開催します。同時に、6 日には、AsianFA・FMA による Ph.D. 学生の研究発表も行なわれます。

参加者：学会関係者 750 名（NFA450 名、アジアファイナンス学会 300 名）程度に加え、学生を中心とする一般参加者を予想。

アジア・オセアニア諸国を中心に、世界各地からの多くの参加者が予想され、国際性豊かで知的に刺激的な大会になると考えられます。有意義な国際大会とするためにも、日本からの多くの参加、会員の皆様の積極的な参加を切望いたします。

以上の準備を進める一方、大会への協賛と寄付を募る活動を続けております。幸いなことに既に幾つかの法人から積極的な支援の態度を示して頂いておりますが、まだ十分な金額が集まったとは言えず、また多くは来年度の予算から出される予定で、経済の先行きによってはどうなるかわからない不確実性があります。大会の安定的な運営のため、今後ますますこの活動に力を入れて行く予定です。会員の皆様からのご協力を宜しくお願いいたします。

2008 年 N F A 国際大会組織委員会
委員長 大橋 和彦

以上

資料 8

2007年6月16日

個人年会費の改訂について

日本ファイナンス学会理事会

日本ファイナンス学会は、1993年創立以来、各種刊行物の拡充、各種活動・サービスの充実を図って参りました。その一方、経費の合理化・効率化に努め、14年間にわたり個人年会費8,000円を守って参りました。しかしながら今日、ホームページの改築充実や2008年第2回国際大会の開催等、学会活動の一層の発展段階を迎え、費用の大幅な増大が予想されます。そのため、日本ファイナンス学会理事会は、現在の学会財政の状態に鑑み、個人正会員の年会費を2008年度から10,000円に改訂することを提案する次第です。

平成19年度予算、18年度決算、17年度決算に続けてみられるとおり、ここ数年、会費収入を支出が上回る状態が続いております。その主因は、学会誌とりわけ International Review of Finance (IRF) 誌が順調に発刊されるようになった結果、それに伴う支払金が増大したことにあります。このため、今後予定どおり年4号発行されるようになりますと、必然的に赤字決算を続けて行かなければならない事態に陥ります。学会誌の順調な発刊は喜ばしいことではありますが、収入不足の恒常化は学会の発展的活動を阻害しかねない問題です。当然いっそうの経費節減を図って行きますが、これまで合理化・効率化に努めてきた経緯もあり、それだけでできることには限度があります。増収策を講じることは避けられない大きな課題です。

今回提案による個人会員会費改訂の増収額は、260万円程度と見込まれます。この金額で、IRF誌年間購入額(支払額、予定)480万円のすべてを賄うことはできませんが、18年度の基礎収支赤字分はカバーできる金額となります。また、第2回国際大会は特別勘定を設けて寄附金を募りますが、学会会計からの拠出も避けられません。会費改訂は、この一助になります。

学会財政にとって、会費収入と支出がバランスすることが急務であり、財政の安定性が活発な活動の基盤であると考えております。今回会費改訂に関する会員各位のご理解ご協力をお願い申し上げます。

以上